

秋多中生の未来に期待する～創立55周年にちなんで～

第8代校長 志村 秀男

郷土秋多中学校を退職して20年が過ぎた。(80歳)この20年、私は何をして何を考えてきたか。(公民館長、高齢者在宅サービスセンター、市役所で教育、地域振興、環境行政に携わった。)

公民館の講座に集まる諸先輩(平成4～5)

ここはテストも宿題もない。学ぶ熱気が伝わってくる。戦争で勉強の機会がなかった。来る日も来る日も勤労奉仕、空襲、二十歳で戦争へ。公民館の仕事をして、学校以外に素晴らしい学ぶ場があることを知った。

高齢者在宅サービスセンターでの先輩の生き方(平成6～10)

私の父母に相当するお年寄りへのデーサービス。9時30分～3時 送迎車

色々な人生を生きてきた自分史をたくさん聞いた。「いつ死ぬか分からない」私たち職員はどうサポートしていけばよいか迷った。「先輩の話をお自身になって聞く」

市役所行政の一員として

教育委員(10年)、市名木巨木選定委員、自然保護(緑地保全・環境審議会)、花いっぱい推進委員(17年)、「西の風新聞花の記事」(20年)、NHK学園花ハイキング講師(12年)

秋多中のそめいよしの(染井吉野)

校庭の東側、市の名木108号(平成5年4月6日)

開校の前年に多西中3年生が現在の位置に植栽。目通り3.15m、樹高11m 樹冠のバランス(枝のバランス)

市内の桜何千本の中から選ばれた。そめいよしのの寿命60年といわれたが、現在は80～100年位に延びた。

秋多中の名称と伝統

昭和33年、多西中・東秋留中・西秋留中が統合し、秋多中となった。木造校舎、平屋3棟「鶏校舎」のニックネーム。

秋留台地の中央、畑の中、春は雲雀がさえずり、砂煙に覆われたりした。水枯れ(もらい水)、ハエ取り紙、冬は大岳おろしの寒風。

2度の台風被害。昭和39年9月17日、屋根瓦の3分の2が吹き飛ばす。昭和41年9月25日、自転車小屋吹き飛ばす。

文武両道 部活が強い秋多中

バスケット、バレー、サッカー、テニス、卓球、陸上、野球、剣道、吹奏楽、手芸、書道、演劇、美術、写真

西多摩大会→都大会→関東大会→全国大会

私も全国の各会場にザックを背負い、「必勝秋多」の扇子を持って渡り歩いた。

秋多中生の未来に期待すること～科学技術は進み、政治経済は困難を極めているが～

1 健康と安全な生活ができるように心掛ける

- ・人間は健康が第一。健康に育ててくれた親や家族に感謝の念をもつ。
- ・東日本の大地震に襲われて、とりわけ安全な生活を維持する体制に迫られている。次々に解明されていく日本列島の構造。
- ・秋多中では、生徒・先生の突然の死を教訓にして、校舎前の花壇に「いのちの碑」(40周年)がある。永遠の課題にしなければならない。
- ・私は自分の歯が27本健在。1本は中2のとき、大車輪中に鉄棒で折った。

2 明るい節度ある生活の継続

- ・まず「あいさつ」と「礼儀」が基本。
人は生活が乱れたり、不安があったりするとあいさつができなくなる傾向がある。
オアシスーおはようございます。ありがとうございます。しつれいしました。すみません。

3 読書の習慣化

- ・テレビ、パソコン携帯電話などの使用に振り回される。(受け身の文化)
本・新聞を読んで「脳の働きを活性化」

4 文化財の保護

- ・文化財は郷土や国の生き証人。
日本列島 沖縄から北海道 3000 km (亜熱帯から冷帯まで)
明治の初め、日本は廃仏毀釈といって仏教を排斥して寺や仏像を壊した。
- ・第二次世界大戦後、日本の各地にある桜を切り倒した。戦争に桜の特徴が利用されたという理由。(軍歌、読み物などに)
- ・先人の創った文化財や大切な自然を破壊しない。
- ・「桜」2000年も生きていた神代桜(北杜市)日本の天然記念物第一号(大正10年10月)
- ・世界遺産など
文化財12件(日光・京都・奈良など) 自然遺産4件(知床・屋久島・白神山地など)
- ・国立公園30カ所(東京では秩父多摩甲斐国立公園、富士箱根伊豆国立公園)
生物の絶滅危惧種の保護

5 つとめて旅をする

- ・百聞は一見にしかず
自分の目で見たり聞いたりして文化財の価値を知り、生活に生かす。

6 人生80年の計画を立てる(生涯計画)

- ・将来の仕事。そのための努力。可能性の実現。

○最後に

- ・仕事も健康も基礎基本をまず身に付ける。